

【学 年】 小学校第 6 学年

【単元名】 「めざせ！マットの達人」（B 器械運動 ア マット運動）（10 時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕	〔学びに向かう力・人間性等〕
回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりした。
（小学校第 5 学年）

働かせる見方・考え方：回転したり、支持したりするなどの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びとともに体力の向上を果たす役割の視点から捉え、自己の適正に応じた多様な関わり方（する・みる・支える・知る）と関連付けること。

段階	学習活動（時間）	留意点
はじめ	1 単元の目標を決めよう。（1）	<p>単元の学習の見通しをもつ場面</p> <p>☞昨年度のマット運動を振り返る中で、児童の言葉で単元の目標を設定、共有する。</p> <p>単元の目標：クラス全員が、自分で決めた新しい技を、自分が理想とする動きに近づけるようにしよう</p>
なか	<p>2 選手とコーチのペアを決めて接点技の練習をしよう。（1）</p> <p>3 接転技を、自分のめざす動きに近づけよう。（3） ○高学年（発展技） ☆更なる発展技 ＜挑戦する接転技＞ ○伸膝後転☆跳び前転○補助倒立前転☆後転倒立○開脚前転☆倒立前転☆易しい場での伸膝前転</p> <p>4 選手とコーチのペアを決めてほん転技の練習をしよう。（1）</p> <p>5 ほん転技を、自分のめざす動きに近づけよう。（3） ＜挑戦するほん転技＞ ○補助倒立○頭はね起き☆前方倒立回転○ロンダート○倒立ブリッジ☆倒立</p>	<p>基礎基本の確実な習得を図る場面</p> <p>自他の課題解決に向けて協働的に学ぶ場面</p> <p>☞接点技を練習する時間を 2 つに分け、「する」選手の時間と「みる」コーチの時間を設ける。自己課題をコーチと共有し合い、ポイントを絞って見合い伝え合えるように助言する。</p> <p>☞追究をより進めていくことができるように、局面ごとの技のポイントを確認したり、他ペアのよさを伝えたりする場面を設定する。</p> <p>☞友の動きのよさに目が向くように、高まっている技のポイントについて助言する。</p> <p>※学習活動の 4、5 のほん転技も上記の留意点を踏まえて指導、支援を行います。</p>
まとめ	6 二人でめざしてきた接転技・ほん転技のできばえを发表しよう。（1）	<p>自己の学びや変容を自覚する場面</p> <p>☞全員の前で、自分が取り組んできた接転技とほん転技を发表する時間を設け、技能面の成果を振り返るとともに、友との関わり合いのよさを実感できるようにする。</p>

次単元へのつながり：回転系や巧技系の基本的な技に取り組む。さらに条件を変えた技や発展技を行ったり、それらの中からいくつかの技を組み合わせを行ったりする。（中学校第 1 学年）